

令和5年度 横川東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と、自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心をもった児童の育成を目指す。

- ・素直で思いやりのある子（なかよく）
- ・よく学び工夫する子（まなび）
- ・健康でたくましい子（あそび）
- ・進んでやりぬく子（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「信頼、活気、喜びのある学校づくり」

子どものよりよい成長のためには、教職員・保護者・地域住民との関わりが重要であり、3つの視点からテーマを設定した。学校と家庭・地域社会との連携を図る教育活動を推進し信頼される学校、質の高い分かる授業を展開し、計画的な教育課程のもと、児童一人一人が生き生きと活動している学校、楽しい心の触れ合いにあふれ、児童が夢をもち喜んで通いたくなる教育が展開されている学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 — 一人一人の児童が、かけがえのない存在である —
- （2）和と連帯を基調として教育を進め、家庭・地域に信頼される学校
— 子どもは地域の子どもたちである。地域や保護者との信頼関係を —
- （3）児童と共に歩み、確かな学力をしっかりと身に付ける学校 — 学力は毎日の積み重ね、日々の授業を大切に —
- （4）児童の思いを豊かにする学校 — 子どもが通いたくなる学級・学校に —
- （5）創意ある「社会に開かれた教育課程」の編成と特色ある学校 — 伝統を大切にしながらも、工夫・改善を —
- （6）教職員自らが学び続ける学校 — 子どものためということを考え、私たちが学ぶ —
- （7）○地域に目を向け、地域とともに歩む学校 — 地域に目を向けよう 保護者や地域の人と会話を —

〔横川地域学校園教育ビジョン〕

豊かな心の育成を目指す、横川地域学校園の小中一貫教育

～自分・人・地域を大切に、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- （1）教育基本法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、小中学校指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、市立小中学校管理規則、宇都宮市学校教育スタンダード、うつのみやいきいき学校プラン、本校教育目標の達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省などを十分踏まえて編成する。
- （2）教育活動全般を通して、特色ある教育を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを目指した教育課程の編成に努める。
- （3）家庭や地域と連携を図り、それらの教育力を活用し広がりを持った教育活動が実践できるように編成する。また、「小中一貫教育地域学校園」の効果的な実施を目指し、次の三点に重点を置いたカリキュラムを検討し具現化していく。
 - ①義務教育9年間の系統性の強化
 - ②教科等間に関連させた教育内容の工夫
 - ③人・社会とのつながりを生かした学習活動の推進
- （4）学習指導上の問題・児童指導上の課題の解決を目指した研究、また、特色ある学校づくりを目指した教育活動の推進を、日々の教育活動の中に組み入れ、全校体制で取り組むように努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○学校と地域社会が連携した教育活動を展開するとともに、子どもの生活に関する様々な情報を共有し、組織的・継続的に課題解決に取り組むことを通じて、家庭や地域から「信頼される学校づくり」を推進する。
- 【学 習 指 導】○社会の変化に対応し、自ら未来を切り拓いていく子どもの育成
- 【児 童 生 徒 指 導】思いやりの心を育むとともに、きまりやマナーを身に付け、励まし合いながら生活する児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○自らの健康面や体力面のよさや課題をよく知り、自分に応じたためあての実現のために、進んで活動に取り組むことができる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	○①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて以下の点に留意して授業を行う。 ・課題解決においては, 見通しをもって取り組ませ, 児童が自分の伸びや変化を自覚できるように振り返りをさせる。 ・個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導する。(話型や発表方法の提示等) ・児童が興味関心を持って取り組める課題を設定し, 各教科における見方・考え方を働かせるように, 教材やICT等を効果的に活用したり授業の展開を工夫したりする。 ②「横東小スタンダード」「話の聞き方」「話し方」を基本とし, 学習時のきまりの徹底を図るとともに, 学年に応じた話の聞き方, 話し方を系統立てて指導する。また, 考えを比較したり深めたりできるよう, 教師のコーディネートを工夫する。 ③校内授業研究会や一人一授業では, 以下の点に留意して授業を行い, 授業改善に取り組む。 ・単元や授業における導入の工夫 ・学習の流れと板書計画の一体化 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定 ・「話し合い活動」の目的や方法の明確化 ・振り返りの視点の精選と明確化		【達成状況】 【次年度の方針】

1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	①体験活動や他の教育活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、認め励ますような言葉かけやワークシート等へのコメントを記すことで、自己肯定感や人を思いやる心などの涵養を図る。 ②朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。 ③クラブ活動や縦割り班での清掃、遊びなど異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。 ④人権教育年間指導計画に基づき、教科や日常生活全般において、人権教育を意図的・計画的に実施するとともに、人権週間や教育相談の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	①道徳科の授業や行事等の教育活動、キャリアパスポートの活用を通して、夢や目標をもつことの大切さを理解させるとともに、折れない心ややり抜く心のたくましさを涵養する。 ②漢字・計算オリンピックや各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛するとともに、日常の学校生活の中で担任や教科担任も児童の頑張りを認め励ます指導に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	①感染症等の予防について正しく理解できるよう保健指導を行ったり家庭にも協力を求めたりしながら、児童が引き続き、自他の健康や安全に気を付けながら新しい生活様式に基づき、自己管理できるよう声をかけていく。 ②関連教科や学校給食の指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③火災または地震・竜巻等の自然災害の発生に備えた避難訓練（授業時間とそれ以外の時間）、交通安全教室・防犯教室・作成した「横東小安全マップ」を活用し、安全への意識付けを図る。 ④体育の授業に持久走や縄跳び、サーキットトレーニング等を継続的に取り入れたり、元気っ子チャレンジへの参加を取り入れたりして運動量を確保し児童の体力向上を図るとともに、ICTを有効に活用して授業の充実に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①授業の話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みの共遊等において、児童が自分の良さを感じたり、友達を認め合ったりする場を設定し、進んでよりよい生活をしようとする力を養う。 ②縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①外国語活動や外国語の授業を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②英語専科教員を中心に外国語活動・外国語に関する校内研修や授業を参観する機会を充実させたり、ALTとの連携を充実したりすることにより、教員の指導力の向上を図る。 ③カレンダー・天気などの英語の掲示物カードを各学級に配付したり、特別教室の英語の表記を活用したりして、日常的に英語に親しみ、英語でコミュニケーションを図る態度を育成する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①生活科・社会科・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業や、百人一首に親しむことのできる学習を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②「宇都宮学」の年間指導計画を基に、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。 ③市の施設巡りや校外学習などの充実を図り、宇都宮市の良さについて、実際に見たり体験したりすることを通して、宇都宮の良さに気付くことができるよう指導する。 ④宇都宮についての学習の状況や成果について、学年だよりに宇都宮学コーナーを設けたりホームページに掲載したりすることにより、周知に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、プログラミングの授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に ICT 機器を活用する。 ②学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。 ③「まなびポケット」の運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。 ④GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT機器を学習に活用する機会を増やしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育てる教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①普段の生活の中でも節水や節電、リサイクル活動等を意識させたりし、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②総合的な学習の時間や社会科等の授業、宇都宮市のSDGsへの取組の紹介等を通して「持続可能な社会」の内容について知り、環境問題への関心を高めさせる。 ③人権教育年間指導計画に基づき、全教職員の教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ④東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実させる。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に校内支援委員会やケース会議を適宜開催して支援の方針を確認したり、職員会議後の情報交換を実施して全教職員が特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図ったりすることで、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、特別支援教育に関する研修を深め、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努めるとともに、適切な支援を行えるようかがやきルームやスクールカウンセラーの効果的活用を推進したり、専門機関との連携を図ったりしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 90%以上 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。 ②学校生活アンケートやQ-Uを活用したり、教育相談を適宜行ったりしていくことで児童理解に努めるとともに、定期的に児童指導委員会を開催することで組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めていく。 ③「いじめゼロ集会」等の計画や実施を児童が主体的に取り組めるよう支援し、活動を通して自分たちでいじめのない学校をつくろうという意識をもたせる。 ④道徳の授業や学級活動の話し合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。また、担任や教科担任も認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U検査等の結果を活用し不適應傾向のある児童の早期発見と対応に努める。また、定期的に児童指導委員会等を開き、関係職員が不登校の兆候や傾向の児童に関する情報共有を図り、児童が安心して相談できる環境を整えたり、よりよい支援の方法を工夫したりするなど学校全体で組織的に対応する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・①「分かった、できた」喜びを味わえる話し合い活動やまとめ・振り返り活動を大切に授業を展開したり、潤いのある日課や学校行事を工夫したりする中で、居心地のよい学級や学校づくりに努めていく。 ②学校行事や児童集会、授業やクラブ活動等において、児童の主体的な学びにつながる活動の場を意図的に設定し、内容を充実させていく。 ③児童会の活性化により、委員会活動の充実や縦割り割班遊びの工夫を図り、児童の自主性を生かした取組に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①「分かる授業」や「できた喜びを味わえる授業」をめざして学年会等の機会を有効に活用し、教科指導の共通理解や教材研究に努める。 ②学校課題に即して教材研究や授業研究に積極的に取り組み、授業力の向上を図るとともに、一人一人の教員のよさと専門性を生かして、教科担任制を推進していく。 ③学校だよりやホームページなどを活用し、学力向上の取組や児童の成長の様子を伝えるなど、情報発信にも努める。 ④学習指導法（少人数指導・習熟度やT.T学習・かがやきルームの活用等）の工夫改善を図り、一人一人に応じた指導に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	①教職員の協働性を高めることに視点を置き、教科指導や学校行事等において、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にしよう。 ②学校内における多様な学校スタッフが、それぞれの専門性を生かして学習指導や児童指導、学校行事における支援、環境整備等に協力し、教育活動を充実させる。 ③教員と専門性を有するスタッフが報告・連絡・相談を密にして連携し、各教科年間計画や各種教育年間計画を基に役割分担を明確にして教育活動や環境整備に当たれるよう、円滑なコミュニケーションを図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めていくとともに、リフレッシュウイークを設定し意識して勤務するようにしていく。 ②教職員の負担軽減に向け、学校評価の結果を反映した学校の組織運営の改善や、新しい生活様式を反映した各種行事等の実施方法の改善、PTAや地域協議会との連携を図っていく。 ③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。 ④GIGA スクール構想に係る内容について校内研修を行い、全職員が共有することによって、効果的に活用できるようにする。 ⑤新しく導入されたスクールタクト等を効果的に活用し、ペーパーレス化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小 学校と中学校が連携した「小 中一貫教育・地域学校園」の 取組を行っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①義務教育9年間を見通した協力体 制を基に、乗り入れ授業や6年生の進 学先中学校訪問、教科分科会や児童生 徒指導強化連絡会等を、目的を明確に して効果的に実施する。 ②地域学校園で行っている小中交流 あいさつ運動や6年生への乗入れ授 業、各学校の研究授業等の様子につい て、学校だよりやホームページ等に掲 載し、保護者・地域への積極的な発信 に努める。 ③地域学校園事務室や、学校一人配置 職員の分科会を通して、学校園内の相 互支援体制を充実する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地 域 と 連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家 庭・地域企業等と連携・協力 して、教育活動や学校運営の 充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答80% 以上 「私は、地域や企業の方々と 一緒に活動することで学習が 充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答80%以 上	①「魅力ある学校づくり地域協議会」 の各部の取組を新しい生活様式に照 らしてより具体的に展開するととも に、特に「防犯・交通安全」や「学校 支援」等について広く情報を発信す る。学校関係者評価を実施すること で、地域の声を反映し、よりよい教育 活動を展開する。 ②「横東の子を育む会」を定期的に開 催し地域・家庭との情報交換を行うと ともに、そこで得た情報を基に安全指 導や児童指導を充実させる。 ③地域や企業等と連携・協力した、学 年に応じた特色のある効果的な教育 活動のあり方を検討し、年間指導計画 の見直しを図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利 用する人の安全に配慮した環 境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回 答90%以上	①毎月安全点検を実施し、危険個所 については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルや避難者初期 支援マニュアル（避難所の開設）を整 備するとともに、避難訓練や引き渡し 訓練等を通して、火事、地震、竜巻、 不審者侵入、感染症感染予防対応等の 不測の事態への備えを万全にする。 ③新型コロナウイルス感染症拡大防 止や熱中症対策予防対策、インフルエ ンザやその他の感染症の蔓延予防対 策など、時期に応じた保健指導・管理 に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業や業務に、デジ タルを積極的に活用してい る。」 ⇒教職員の肯定的回答85% 以上	①児童がコンピューターや情報通信 ネットワークなどの情報手段に親し んだり、プログラミングの授業で操作 をしたりすることを通して、適切に活 用する能力を育成できるよう、授業に おいて積極的にICT機器を活用す る。 ②学習に役立つ図書及び図書以外の 資料を活用して、学習の効果を高めら れるよう各学年のその時期の授業内 容との関連に配慮した教育図書の整 備充実や市立図書館との連携等、学校 図書館の環境整備に努める。 ③「まなびポケット」の運用に向けた 校内研修を充実させ、状況に応じた学 習指導ができるよう準備を進めてい く。 ④GIGAスクール構想による一人 一台のタブレット端末を積極的に使 用し、ICT機器を学習に活用する機 会を増やしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と 場に応じたあいさつをしてい る。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯 定的回答 80%以上	①児童指導の重点指導項目として、学 年経営案・学級経営案の中に位置付 け、教職員が具体的な場を通して強化 を図れるようにする。 ②引き続き、児童会を中心にあいさつ 運動を行い、あいさつの大切さを広 め、校内だけでなく登校時にも進んで あいさつするよう意識を高める。 ③学年だより、学校だより、地域協議 会だより等を通して保護者や地域と の連携を図っていく。また、地域学校 園全体での取組も合わせて推進して いく。 ④児童が時と場に応じてあいさつが できるよう、児童指導部からの提案や 指示を基に全教職員が同一歩調で真 剣に指導に当たるとともに、教師も率 先垂範する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	○①「横東小スタンダード」を活用し、授業や生活のきまりを具体的に理解させることにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、引き続き、定期的に児童指導委員会を開催し、児童の実態から課題を共有するようにする。「横東小スタンダード」が学校生活に浸透するよう、指導のポイントなどの細かい部分を工夫改善し職員間で共有していく。 ②授業と生活のきまり、社会の一員としてのマナーについて全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。 ③週ごとに生活目標を設定し、月曜日の朝の放送で放送委員が周知し、帰りの会等で毎日振り返りを行うことで望ましい生活習慣への意識を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B3 児童は、授業や集団活動の開始時刻をきちんと守れている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業や集団活動の開始時刻を守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	○①ノーチャイムで日課を運営することにより、児童が時計を見て行動できるようにする。清掃開始時刻については、曲を流して知らせ、守れるようにする。 ②児童の生活実態に応じて、随時、週の生活目標や学年・クラスの行動目標に設定するとともに、高学年児童が時間を守ることを率先垂範できるよう指導していく。	
	B4 漢字の読み書きや計算力の定着を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、学習した漢字を正しく読み書きしたり、基本的な計算を正しく計算したりできる。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①基礎基本の定着を図るための指導法の研究をする。さらに、「計算オリンピック」「漢字オリンピック」の出題範囲を明確に示したうえで練習期間を設けることや、個人の達成目標をもたせることで、学習意欲を高めるとともに、定着を図る。 ②少人数指導や習熟度・TT学習などの体制による授業を展開し、学力の向上を図る。 ③「家庭学習の手引き」を基に低学年から家庭学習の習慣化の重要性を個人懇談の場や学年だより等で保護者に伝えたり、1人1台端末を活用したりして、学年の発達段階に応じた家庭学習を習慣化させる。 ④朝の学習や家庭学習において、端末を積極的に活用していく。	

	B5 児童は読書活動を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、読書することが楽しい。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①読み聞かせボランティアや図書委員会の児童による取組、図書館司書の授業参画、図書館の環境整備、読書センターとしての機能の充実を図る。 ②朝の読書や図書館の利用指導の充実、読書貯金通帳の効果的な利用、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活性化を図る。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ④図書だよりや学年だより等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、特に家庭での読書（家読）の啓発に努める。	
	B6 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上 「自分の子どもは、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が各教科や生活の中で、時と場に応じた言葉づかいを適宜指導し、強化を図れるようにする。 ②学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域の方にも正しい言葉づかいについての指導の協力を求めるとともに、大人が率先垂範するよう呼びかける。 ③校内に正しい言葉遣いを啓発する環境整備を行い、意欲喚起を図る。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

